

日本への架け橋

・ 専門家が語る日本の教育制度と語学学習・

丹羽 筆人 Niwa Fudehito

米日教育交流協議会代表。在外子女の日本語教育と帰国生大学・高校・中学入試のサポートを行なう。他にデトロイト補習授業校講師。



◆米日教育交流協議会
電話：1-248-346-3818 サイト：www.ujec.org

Vol.04

有意義だったサマーキャンプの学校体験

米日教育交流協議会主催の日本語と日本文化の体験学習プログラム「サマーキャンプ in ぎふ」の第1期では、学校体験があります。参加者たちは活動場所の岐阜県山県市の公立小学校、中学校、高校で日本の学齢に合った学年に所属し授業や給食、掃除を体験しました。

授業は、通常行われている科目を受講しました。当キャンプの参加者は海外生まれや海外生活が長い子どもが多いため、補習校に通学していない参加者も目立ち、国語や社会はあまり理解できなかったようです。ただし、中学校の年中行事に関する授業では興味深く耳を傾け、先生に質問された海外の行事について紹介していました。数学では日本の子どもたちよりも知識があることに驚かれる参加者もあり、理科では実験に熱心に取り組んでいました。英

語では、ネイティブの発音を披露する場面がありました。

小中学校は全国でも珍しく自校給食を実施しています。給食センターから配送されるものとは異なり、地元の食材も利用して調理されます。参加者にとっては、初めて口にする食材もありましたが、おいしかったと好評でした。中学校には海外の学校のようなランチルームがあり、全校生徒と一緒に食事をします。しかし、おしゃべりをしないで静かに食べることは困惑したようです。また、掃除は海外の学校では経験できない体験です。中学校の掃除は給食と同様に無言で行いますが、掃除の方法を教えてください、黙々と取り組んでいました。

このような体験は参加者たちにとって有意義でしたが、日本の子どもたちにとっても、海外に生活す

る同年代の子どもたちと過ごしたことは貴重な体験になったでしょう。参加者たちが第2言語である日本語だけの環境で過ごすことの大変さは、自分たちが海外に行った時に感じることです。参加者たちと日本語でコミュニケーションをとることができますが、英語では難しいと感じたでしょう。この体験が日本の子どもたちの英語学習や国際理解の意欲向上につながることを期待しています。



▲学校体験では日本の伝統文化についても学ぶ